

議事要旨

会議名称	第11回 杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会
日 時	令和6年10月31日（木）15：00～17：00
場 所	杉並区役所分庁舎4階 会議室A・B
出席者	<p>【構成員】</p> <p>■学識経験者 大沢氏、高見澤氏、関口氏</p> <p>■交通事業者 東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社、関東バス株式会社、西武バス株式会社、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会、公益財団法人東京タクシーセンター</p> <p>■関係行政機関 警視庁交通部交通規制課、警視庁荻窪警察署、東京都第三建設事務所管理課、東京都第三建設事務所補修課</p> <p>■杉並区関係各課 まちづくり担当部長、土木担当部長、区民生活部荻窪地域担当課長、産業振興センター次長、都市企画担当課長、交通企画担当課長、土木計画課長、都市計画道路担当課長兼都市整備部副参事（荻外荘担当）、杉並土木事務所長、拠点整備担当課長</p> <p>【事務局】 杉並区都市整備部市街地整備課荻窪まちづくり担当</p> <p>【欠席】 一般社団法人東京都個人タクシー協会、東京都都市整備局都市基盤部交通企画課、都市整備部長、政策経営部企画課長、保健福祉部管理課長、都市整備部管理課長、市街地整備課長、土木管理課長兼みどり施策担当課長、</p>
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）荻窪駅周辺まちづくりの取組状況について</p> <p>（2）評価指標の現状値</p> <p>（3）施策の取組状況について</p> <p>（4）荻窪駅周辺 都市総合交通戦略改定の見送りについて</p> <p>（5）情報交換・意見交換</p> <p>（6）その他</p> <p>3. 閉会</p>

(1) 荻窪駅周辺まちづくりの取組状況について

(2) 評価指標の現状値

事務局より、資料3・4を用いて荻窪駅周辺まちづくりの取組状況を、資料5を用いて評価指標の現状値を、それぞれ報告した。

【構成員からの意見等】

- ・ゾーン30プラスについて、生活道路での速度抑制対策としては、速度規制と合わせて物理的デバイスを設置することは有効な対策である。引き続き推奨していく。
- ・今後、杉並区内で新たにゾーン30プラスを実施するという事になれば、ゾーン30の実施箇所の中から選定し、十分検討を重ねた上でやっていく。
- ・荻外荘公園について、12月9日からの一般公開は事前申込制などの入場規制は行うのか。
→一部の方に一般公開前の内覧会に招待し、計画的に案内している。開園式の日には南側の芝生広場を会場として使用するため、スペースに余裕がある。入場規制等を行う予定はない。
- ・評価指標の1つである駅利用者の満足度については、不確定な要素があるものの、列車の遅延、バリアフリー整備状況、駅構内の快適さ、駅周辺の商業施設などの様々な要因が関係していると考えられるため、それらを探りながら利便性を高めていく必要がある。
- ・東京都は荻窪駅周辺地区で11月16日から約一週間自動運転の実証実験を行う予定である。杉並区も東京都が設置した「自動運転社会を見据えた都市づくりの在り方検討会」に委員として参画しており、杉並区が運行予定のグリーンスローモビリティも将来的に自動運転化する計画もある。
- ・評価指標の1つである荻窪駅の1日平均乗降員数について、令和5年度の現状値は242,043人であり、新型コロナウイルス感染拡大による乗降員数減少からは回復傾向にはあるが、令和10年度の目標値である298,000人に対して5万人程度増やす必要がある。荻外荘公園等に多くの方に来ていただき、目標値に近づけるようにしたい。

(3) 施策の取組状況について

資料6の施策の進捗状況について、主要な取組や動きのあった施策について、各所管から報告を行った。

<施策2 荻窪地下道のバリアフリー化に向けた調査・検討>

荻窪地下道のバリアフリー化の検討を昨年度から行っている。昨年度はトンネルの構造・鉄道などの周辺環境の確認、利用者の数などの基礎的な調査を実施し、今年度は自転車も運搬可能な大きなエレベーターの設置と自転車用のベルトコンベア設置の2つのパターンの比較検討を進めてきた。今後は地下道の利用者の利用目的などの調査も行い、整備をする際の詳細計画の検討な

ども進めていく。また、補助金の活用についても考慮する。

<施策9 シームレスな案内・誘導サインの整備に向けた調査・検討・協議>

設置に関する協議・調整は完了しており、順次施工を行い11月29日からの供用開始を予定している。

<施策32 シェアサイクル事業の実施に向けた調査・検討>

令和5年度より本格実施を行っており、令和6年9月1日時点で公有地におけるシェアサイクルポートを51箇所まで拡充した。令和8年度までには公有地におけるシェアサイクルポート60箇所を設置することを目標に各所設置を計画している。荻窪地域では、令和5年度に大田黒公園に設置しており、今後角川庭園、荻外荘公園、中央図書館への設置の予定をしている。

<施策34 観光バス等の利用環境の確保に向けた調査・検討>

荻外荘公園の開園に伴い、観光バス等のバス利用を見越して、団体バス用の駐車場の確保の検討を進めてきたが、荻外荘開園に伴うバス利用の需要なども未知数であることから、令和6年度の整備は見送りとし、今後の状況を見定めていくこととした。

<施策37 駅周辺における無電柱化の調査・検討>

駅周辺の無電柱化路線は2路線あり、そのうち杉並保健所前のバス通りは着手済で、令和6年度から企業者が水道管の支障移設工事を行っている。来年以降も水道管やガス管などの支障移設工事を予定している。もう1路線の荻外荘通りについては、令和6年度に測量・概略設計を行っており、企業者との調整などを進めていく予定。

<施策40 駅周辺の自転車ネットワーク路線の整備>

平成28年末に策定した自転車ネットワーク計画と自転車利用総合計画を包含する形で、新たに令和6年2月に自転車活用推進計画を策定した。その中で、令和6年度中に自転車のネットワーク路線の再構築を行うため、有識者や東京都、国の各委員にご参画いただき、検討を進めている。

<施策41 ホームドア設置の推進>

2031年度までのホームドア整備に向けて準備の整った駅から設置を進めている。2031年までとは言わず、出来次第、早急に整備をしていきたい。中央線快速のグリーン車のサービスについては令和7年の春から供用開始され、全てが12両に置き換わる予定。

<施策44 自動運転公道実証実験への協力>

令和5年4月に国交省の道路に関する新たな取り組みの現地実証実験社会実験の公募に応募

し、採択を受けた。その取り組みと合わせて、令和6年度はグリーンスローモビリティのルートにて、3D都市モデルの構築・データ整備に取り組んでおり、現在LOD3のレベルでデータを整備している。

【構成員からの意見及びそれに対する回答】

- ・施策32 シェアサイクルについて、ポートが増えネットワークが構築されてきていると感じるが、シェアサイクルの事故等の報告はあるか。
→3社と協定を結んでいるが、区内で事故があったとの報告は受けていない。
- ・施策25 デジタルサイネージ等の設置について、鉄道やバス、タクシー等の乗り場の案内をする上で、板面更新が容易なデジタルサイネージは有効な手段だと考える。交通事業者としては推進していただきたい。
- ・施策30 散策ルートのPRについて、三庭園めぐりマップを廃止とあるが、代わりにスマホ等で閲覧可能なものを作成する等を行う予定はあるか。
→これまで区で散策ルートマップを作成していたが、荻窪三庭園の管理者が変わり、指定管理者が作成することとなった。語弊を招く表記があったが、廃止ではなくリニューアルを行うと捉えていただきたい。また、令和6年12月にはSNSを活用したまち歩きイベントを行う等新たな取組も実施予定である。

(4) 荻窪駅周辺 都市総合交通戦略改定の見送りについて

事務局より、荻窪駅周辺 都市総合交通戦略改定の見送りについて以下の通り説明を行った。

令和2年度の第8回連絡協議会にて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い人々のライフスタイルが変わってきたため、交通戦略の改定等を視野に入れた検討が必要ではないかという意見があり、区内で検討を進めてきた。しかし、検討を進めていく中で令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、公共交通機関の利用率も上がってきているという状況を鑑み、今回は見送るという形で進めさせていただく。

(5) 意見交換・情報交換

令和5年1月に連絡協議会を開催してから2年近く経過しているため、現状や今後の見通しを交通事業者に伺い、意見交換・情報交換を行った。

<鉄道事業者>

- ・令和5年1月の連絡協議会では、乗降員数はコロナ前に比べて2割減といった話をしたが、現在は1割減程度で推移している（東京地下鉄）。

<バス事業者>

- ・コロナ前と比較すると、収益的には9割くらいまでは回復している（西武バス）。

- ・中央線駅への集客が旺盛で西武新宿線より北側からも中央線駅へ向かう利用者が多い。荻窪や吉祥寺あたりだと令和1年を超えるお客様に乗車していただいている。(西武バス)
- ・担い手不足により減便している。

<タクシー事業者>

- ・コロナが明けてインバウンド等により利用者が増え、タクシーが足りないと言われている時期もあった。各社人材採用の方を積極的に進めている。
- ・アプリ配車が増えたことで多様なお客様需要に答えることができるようになった一方、タクシー乗り場に入構するタクシーが少なくなり、アプリに対応できない高齢者等が利用しづらくなったという意見も一部ではある。

【構成員からの意見及びそれに対する回答】

- ・杉並区は23区で1番自転車の乗りやすいまちを目指して、自転車活用推進計画を策定し、ネットワーク路線を再構築に取り組んでいる。荻窪駅周辺で特に交通の安全性に懸念がある場所や事例があれば交通事業者に伺いたい。
 - バスの運行において自転車への注意は課題であり、自転車、駐車車両、バスの3車集合というものにはタイミングをずらして運行するように指導している。
 - 車道に電動キックボードやスピードの速い自転車が増えてきている。自転車同時の二重追い越しのタイミングが読みづらく、非常に危険。
 - 幹線道路ではなく、生活道路においては自転車が軽車両という意識がなく、一時停止をしないことが多い。
 - 自転車路側帯が増えてきており、タクシー乗り場を作るのが困難になってきている。
- ・交通事業者の様々な努力をしていただいているが、自転車等の利用者のモラル向上させるためのソフト面での対策も必要。

(6) その他

- ・構成員である高見澤先生が協議会を退会される。

以上